

グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)
評価項目及び評価の視点

評価項目		評価の視点															
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である																
I. 目標達成度	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	採択プログラム実施計画の目標を達成したか 採択の審査結果通知の際の留意事項について対応できたか 客観的な情勢の変化があった場合には、所期の計画の適切な見直しなど機動的に対応できたか															
II. 成果	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">カリキュラムの整備</td> <td>座学のみならず、個別課題の設定とその解決に向けた実践的取組を含んだものとなったか</td> </tr> <tr> <td>個別企業との密接な連携・協力又は研究開発成果を基にした起業等を検討するプログラムであったか</td> </tr> <tr> <td>自らの機関に限定せず、広く機関外にも開いたプログラムとなったか</td> </tr> <tr> <td>受講者、関係者間等で、継続的なコミュニケーションが行われているか</td> </tr> <tr> <td>受講期間が1年以内のプログラムであったか</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">イノベーション・エコシステムの形成</td> <td>民間企業、海外機関等との連携が、イノベーション・エコシステムの構築に資するものとなったか</td> </tr> <tr> <td>海外の大学等との連携のあるプログラムとなったか</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">育成人材</td> <td>申請書に記載の人数以上が受講するものとなったか</td> </tr> <tr> <td>修士、博士の大学院生及び37歳以下の若手研究者が受講者の半数以上であったか</td> </tr> <tr> <td>これまでに申請機関が行ってきたプログラムに比べて、大きく発展した人材育成事業を実施するものとなったか</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(参考) その他特筆すべき成果</td> <td>大学等の研究開発成果を基にしたベンチャーの創業や既存企業による新事業創出の促進がなされたか など</td> </tr> </table>	カリキュラムの整備	座学のみならず、個別課題の設定とその解決に向けた実践的取組を含んだものとなったか	個別企業との密接な連携・協力又は研究開発成果を基にした起業等を検討するプログラムであったか	自らの機関に限定せず、広く機関外にも開いたプログラムとなったか	受講者、関係者間等で、継続的なコミュニケーションが行われているか	受講期間が1年以内のプログラムであったか	イノベーション・エコシステムの形成	民間企業、海外機関等との連携が、イノベーション・エコシステムの構築に資するものとなったか	海外の大学等との連携のあるプログラムとなったか	育成人材	申請書に記載の人数以上が受講するものとなったか	修士、博士の大学院生及び37歳以下の若手研究者が受講者の半数以上であったか	これまでに申請機関が行ってきたプログラムに比べて、大きく発展した人材育成事業を実施するものとなったか	(参考) その他特筆すべき成果	大学等の研究開発成果を基にしたベンチャーの創業や既存企業による新事業創出の促進がなされたか など
カリキュラムの整備	座学のみならず、個別課題の設定とその解決に向けた実践的取組を含んだものとなったか																
	個別企業との密接な連携・協力又は研究開発成果を基にした起業等を検討するプログラムであったか																
	自らの機関に限定せず、広く機関外にも開いたプログラムとなったか																
	受講者、関係者間等で、継続的なコミュニケーションが行われているか																
	受講期間が1年以内のプログラムであったか																
イノベーション・エコシステムの形成	民間企業、海外機関等との連携が、イノベーション・エコシステムの構築に資するものとなったか																
	海外の大学等との連携のあるプログラムとなったか																
育成人材	申請書に記載の人数以上が受講するものとなったか																
	修士、博士の大学院生及び37歳以下の若手研究者が受講者の半数以上であったか																
	これまでに申請機関が行ってきたプログラムに比べて、大きく発展した人材育成事業を実施するものとなったか																
(参考) その他特筆すべき成果	大学等の研究開発成果を基にしたベンチャーの創業や既存企業による新事業創出の促進がなされたか など																
III. 計画・手法の妥当性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	プロジェクトマネジメント（PDCAサイクルを含む）は適切であったか 本事業に選定されていない大学への普及やノウハウの共有がなされたか 予算の用途は、適切かつ効果的であったか															
IV. 補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	大学経営層のリーダーシップの下、補助事業期間終了後も長期的に継続することが可能な体制を構築しているか 持続的なイノベーション・エコシステムの継続・発展が確保されているか 長期的に民間企業等からの収入等を得るための具体的な取組みとなっているか															

注釈：「所期」は「採択後修正された申請書の内容」のこと